

12月19日（水）

ロイヤルメルボルン病院と大阪市立大学医学部との連携協定締結（MOU）の立会い 及び ロイヤルメルボルン病院等視察



ロイヤルメルボルン病院は1848年にメルボルン病院として設立された歴史ある病院であり、オーストラリアの最先端病院の代表格である。特に先進的医療の医学研究には高い評価がある。医学教育でも中心的役割を担い、大学院卒業後の研修に加え、多くの臨床研究の共同研究を行っている。ヘルスケア・ライフサイエンス分野へのベンチャー企業の参入も積極的に支援している。

今回の目的の一つは、医療分野の交流促進を図るため、オーストラリアの最先端病院であるロイヤルメルボルン病院と大阪市立大学医学部との学生交流・研究者交流等における連携協定（MOU）を締結することである。

ロイヤルメルボルン病院到着後、まず辻市会副議長から挨拶を行った。その後メルボルン病院のクリスティン・キルパトリックCEOから御挨拶をいただき、大阪市立大学の鶴田大輔教授が挨拶を行った。

【辻市会副議長 挨拶要旨】

大阪市立大学医学部とロイヤルメルボルン病院とのMOU調印式に立会人として参加させていただき、うれしく思う。また、このような調印式を開催して頂いたロイヤルメルボルン病院の皆様には深く感謝申し上げます。

ロイヤルメルボルン病院に来て最初に驚いたのが、アコーディオンやギターの生演奏が行われていることである。医師が患者のことを考えているということに感動した。

大阪においては約300年前から商人たちが薬の開発等の事業展開をしてきた歴史がある。現在でもバイオ関係や健康食品の研究開発に取り組んでいるメーカーが集積している。さらに大阪には大学、研究機関が集積しており、その強みを生かしてライフサイエンス分野の発展を目指しているところである。

先月パリで開催されたBIE総会において、2025年万国博覧会の大阪開催が決定した。「いのち輝く未来社会のデザイン」をコンセプトに、世界の英知を結集し、ライ



フサイエンス分野に新たなイノベーションをもたらすことが期待されているところである。

ロイヤルメルボルン病院はオーストラリアの最先端病院であり、特に先進医療における医学研究に高い評価があるとともに、オーストラリアの医学教育でも中心的役割を担っていると聞いている。本日、大阪市立大学とロイヤルメルボルン病院がMOUを調印できることは大変喜ばしいことである。大阪万博も予定されている中、両市のメディカルサイエンス分野がさらに発展していくことを期待している。このMOUを機にした取り組みを通じて、メルボルンと大阪がより魅力的な都市となることを祈念する。

【クリスティン・キルパトリックCEO挨拶要旨】

大阪市の代表団の皆さんをお迎えできたことを大変うれしく思う。本日、大阪市立大学とロイヤルメルボルン病院とのMOUを締結することになるが、それにより大阪市とメルボルンの関係はより強くなる。

先ほど音楽セラピーの話題が出たが、もちろん患者の方々のためでもあるが、こちらで働く職員、訪問する家族の方々も対象にしたものである。

この後、視察をしていただくが、その前に大切なセレモニー（MOU締結）を行いたい。鶴田教授の挨拶の後に調印式に移りたいと思う。



【鶴田教授 挨拶要旨】

医学研究科長の大畑の代わりに補佐である私が来させていただいたが、ここに来られて大変うれしく思う。実は今回で2回目の訪問になる。3年前に、あるコラボレーションを開始したが、残念なことにその時は十分な成果は得られなかった。それは定まった焦点がなかったためである。そこで大畑は認知症に焦点を当てた。ここでみられるような新しいテクノロジーや音楽セラピーなどである。大畑は「カラオケ」セラピーをすることに決めた。これはコラボレーションが非常にうまくいった例である。

ここには多くのメラノーマ（悪性黒色腫・皮膚がん）の患者がおられるが、最近ではゲノム科学が焦点を当てられている。この病気は人種との関連性があり、我々の大学



が現在行っている研究に完全にマッチしている。これはコラボレーションの始まりに過ぎない。コラボレーションをより深めていくために、大阪とメルボルン間の直行便がないので市長に期待したい。我々を招待いただき感謝している。それでは調印式に移りたいと思う。

続いて、MOU調印式、記念品の交換を行った。



調印後の記念撮影



記念品の交換



この調印式を記念して、音楽セラピー部門のマネージャーでもあるエマ・オブライアン医師と御令嬢から「あの素晴らしい愛をもう一度」を流暢な日本語で披露していただいた。その後、ロイヤルメルボルン病院の視察へと移行した。

音楽セラピーの一環として、病院内ではさまざまところで歌と演奏が行われており、辻市会副議長が飛び入りで参加し、「Let it be」を熱唱した。



病院内での歌と演奏



病院内の視察の様子

以上でロイヤルメルボルン病院の視察を終了した。

ビクトリア州責任あるギャンブリング財団との意見交換

ビクトリア州責任あるギャンブリング財団は、ギャンブルのリスクについて人々に周知するとともに、他者のギャンブルの影響を受けた人々を含め、ギャンブルから離れられない人々に支援を提供するためにビクトリア州政府等に協力することを目的に設立された団体である。

ジューン・ドア暫定CEOから御挨拶を頂き、カジノとギャンブルによる危害とその対策について、トニー・フィリップス ナレッジ・制作部門長及びターニャ・フレッチャー防止策・プログラム部門長から制度の説明を受けた後、意見交換を行った。

【ジューン・ドア暫定CEO 挨拶要旨】

財団の暫定CEOとして皆様に歓迎の意を表したい。私はこの仕事に就く前には30年間地方自治体で仕事をしていたので、大阪市会の皆様を迎え入れることをうれしく思う。ギャンブルに関わる経済的な側面、社会的な側面について地方自治体が非常に戦略的な考え方をすることは両国にとって非常に重要なことである。



オーストラリアには地方自治体の上に州政府、さらに上には連邦政府と3層となっているが、3つとも同じ目的に向かっている。責任あるギャンブルのいい面を享受するとともに悪い面の予防策をしっかりと行うということである。

大阪に一度訪れたことがあるがとても素晴らしい街であった。私は日本の文化、伝

統を大変尊敬している。具体的な話はフィリップスから説明させてもらう。

【トニー・フィリップス部門長からの制度説明概要】

重要な点として、ビクトリア州のギャンブルはカジノだけではないということである。法制局や州政府が注目しているのはすべての形態のギャンブル、そしてギャンブルによる危害への対策である。カジノを取り締まる法律としては、ギャンブル規制法とカジノ管理法の2つがある。ギャンブル規制法はすべてのギャンブルを網羅している法律であり、カジノ管理法はカジノに特化している法律である。



州政府のゲーミング担当大臣の下にゲーミング種類規制局、ギャンブル規制局、責任あるギャンブラー財団の3つの部門がある。当財団の主なミッションはギャンブルによる危害の防止、そして危害への対策を取ることである。私たちの財源はギャンブルから得られた税収であるが、すべてを私たちが徴収しているわけではない。ギャンブルをした人たちの損害金は17億7,350万ドル、カジノが州政府に収めている税金は2億1,690万ドルである。

ここ3、4年間はギャンブルの種類や誰がギャンブルの危害を受けるのかということと、その理由の調査研究に対してかなりのお金をかけている。その研究の成果で私たちの考えに変化が生じている。依存症の人と健常者という分け方ではなく、段階的な程度で分けるような考え方になっている。さまざまな程度の段階を行ったり来たりしているのが普通である。

ビクトリア州にはギャンブルによる危害がどの程度あるのかということもよく分かるようになってきており、その危害によるコストも年間約70億ドルになることが分かってきた。このすべてが州政府に対するコストではない。心理的なコスト、家族に対するコスト、企業に対するコスト、医療のコストがある。

ビクトリア州のギャンブルによる危害を受けている人のうち、重度の危害を受けている方は3万6,000人である。我々が特に力を入れているのが低レベルの危害を受けている30万人のグループである。カジノで月に1回以上ゲームを行う人がこのカテゴリーに入る。

【ターニャ・フレッチャー部門長からの制度説明概要】

次に、危害をどのように防止し、危害を受けている方をどの様に治療していくかを説明する。その対策はギャンブルを行う人だけでなく、その家族や知人に対しても行っている。1人のギャンブラーに危害を受けるのは6人までとの研究結果がある。ギャンブラーに対するサポートとして、地域の中でのサポート、電話によるサポート、オンラインによるサポート、ギャンブル依存症から立ち直った方が行うサポート、特別なサポート（原住民の方や英語以外の言語を使う方へのサポート）がある。



地域の中でのサポートには、セラピー的なカウンセリング、金銭的なカウンセリング、コミュニティに対する取り組み（学校やスポーツクラブに出向いて行う予防的な取り組みや他の団体と連携した取り組み）、スロットマシンなどを設置している施設に対する訓練や研修によるサポートがある。電話によるサポート及びオンラインによるサポートは24時間対応である。ギャンブル依存症から立ち直った方が行うサポートはしっかりとした訓練を行ったうえ、ボランティアベースでサポートしている。

特別なサポートの内容であるが、まずは原住民に対するサポートである。原住民が作ったサポート団体に金銭的なサポートを行っている。アラビア語、中国語、ベトナム語のコミュニティに対してもそれぞれのコミュニティに適したサポートを行っている。オーストラリアは多民族国家であるので、民族によってギャンブルの経験が異なることを理解しているのでこのようなサポート方法を取っている。

【意見交換概要】

○スポーツギャンブルとカジノができてからの依存症者の人数の推移は？

→当時は研究していなかったのだからわからない。1999年に研究を始めてから、スロットをする人は減っているが、依存症の度合いは深刻化している。

○電話によるサポートは受け持つ人が決まっているわけではなく、電話を受けた人が対応するのか。

→電話によるサポートは基本的には匿名で行っているため、担当者を設けているわけではない。ただし、年齢によるマッチングを行うこともある。

○カジノと既存のギャンブルの対策の違いはあるのか。

→ギャンブルの形態によって対策を分けている。中でもスロットと競馬を行う方に深刻な依存症の方が多い。若者の間ではスポーツギャンブルが増えてきているが、最近のトレンドなのでまだ理解が浅いところがある。公衆衛生的アプローチでさまざまな対策を講じているところである。アクセスのし易さが共通の問題点である。

○再発防止のメッセージの発信方法も変化してきているのか。

→ギャンブルがオンライン化していることから、ケーブルテレビ、オンラインによる再発防止の広告が多くなっている。ただし、広告によって逆にギャンブルを思い出させないよう注意が必要である。また、恥ずかしい気持ちが手助けの妨げにならないように啓発する必要もある。

○ギャンブルリスクの高い年齢層は。

→若い男性が一番リスクが高いが、ギャンブルの種類にもよる。年配の女性は悲しいことがあった時にスロットに走りやすい傾向があるなどさまざまである。移民や留学生もストレスを抱えておりリスクが高い。民族性にもよるところがあるが、日本人は免疫があるように思われる。

○今後対策を検討する我々へのアドバイスは。

→教育と啓発活動が重要であるが、それだけでは足りない。ギャンブルへのアクセスが増えれば増えるほど危害が増えることは間違いない。



意見交換の様子

以上で意見交換を終了した。

I R（クラウン・リゾート）視察



クラウン・リゾートはヤラ川南岸（サウスバンク）に位置するオーストラリア最大規模の統合型リゾートであり、カジノのほか、ホテル、レストラン、バー、劇場、ブランドショップ等を備えた複合集客施設である。1997年に開業し、2012年にVIP用施設の拡張、再開発、メインカジノフロアの改修を実施しており、現在の年間来客数は約2,100万人である。最初に会議室においてクラウン・リゾート財団のケン・バートンCFO

からクラウン・リゾートに関する説明を聴取した。

【ケン・バートンからの説明概要】

クラウン・リゾートでは研修・訓練と責任あるギャンブルの対策が中心的な役割となっている。メルボルンのクラウン・リゾートは24年目になるが、ほかのIRと異なる点としてメルボルンのインフラ、コミュニティ、ソーシャルネットワークの一部になっていることが挙げられる。

政府、お客様、コミュニティなど、すべての利害関係者と持続的な関係を保つことが非常に重要である。お客様をギャンブルによる危害から守ることも非常に重要である。また雇用を増やすこと、政府に対してもさまざまな利益を与えることも大事である。この施設には1万5千人の従業員がいる。一カ所にいる従業員数としてはビクトリア州最大である。



教育研修の制度が非常に充実しているのが大きなポイントであり、ホスピタリティの最高の教育を追求することが私たちにとって重要である。

ビジネスを行うに当たって社会的な責任を果たす責任があり、原住民の雇用、障害者の雇用にも力を入れている。

クラウン・リゾートが納める税金は約6億ドルである。大きな割合を占めているのがゲーミング税である。ビクトリア州に対する経済波及効果は約31億ドルにも及ぶ。

このようなカジノコンテンツを建設するに当たっては膨大な投資が必要となる。この2、3年で20億ドルほど投資している。建設当初の1997年には25億ドル投資した。これは現在の価格に換算すると何倍にもなる。大阪では100億米ドル程度と聞いているが、比較の例でいうと、シドニーで小規模なカジノが建設中であるが、350室の客室でゲーミングフロアは3つで、20億ドルほどの投資である。

2033年までであったライセンスは17年延長され2050年までとなったが、適切かどうかのレビューが5年ごとに行われる。シドニーは2099年、パースは2065年までライセンスが有効となっている。投資する側にとっては長いライセンスが重要となる。IRは経済面で良い面があるが、悪い面で責任を果たす必要がある。依存症対策、教育・研修、投資、観光で責任を果たすことである。

日本では住宅から離れたところでIR建設の話が出ているが、いかにクラウンメルボルンが魅力的であるかを示す内容として、IRの近くのマンションを買いたいという方が多い。この事例からも、日本では現在はカジノに懸念を抱いている方がいると思うが、将来的には付加価値が付いて近くに住みたいという方が増えるのではと考え

ている。カジノ以外のエンターテインメント施設（イベント会場、ショールーム、飲食店、映画館、ボーリング場など）が非常に充実している。

環境に対する影響を非常に注視している。施設が1カ所に集中している利点として、エネルギー消費の効率化を図れることが挙げられる。

利益の3分の2を納税している。それ以外にもコミュニティからお金を得ているので還していく責務があると考えており、財団を通じて2億ドルをさまざまな慈善事業に提供している。特に大切にしているのが若者に対する支援であり、社会的に弱い立場にある等の8,000名の学生に対して将来に役立ててもらいたいと思い投資している。

説明聴取後、クラウン・カレッジでの研修状況やクラウン・リゾートの施設内見学を行った。



ディーラー研修の様子

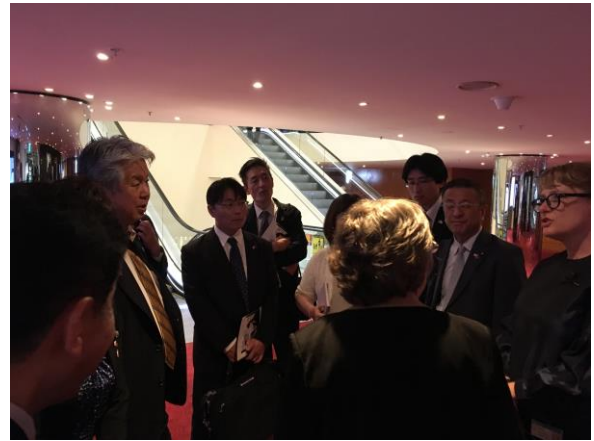


カジノ施設

カジノ施設の近くには24時間体制の依存症対策の支援センターがあり、牧師による支援など、さまざまな支援が行われている。



依存症対策の支援センター入口



支援センターについての説明聴取

以上で視察を終了し、全行程を終えた。

おわりに

今回、姉妹都市提携 40 周年を記念してメルボルン市を訪問したが、行く先々で温かいおもてなしを受け、代表団一同、大変感動した。3日間という非常に短い期間ではあったが、大阪・メルボルン両市の関係者の調整のおかげで充実した行程となっており、表敬訪問、レセプション、視察などさまざまな形でたくさんの方たちと交流を深め、意見交換し、とても有意義な時間を送ることができた。

意見交換等を通じて、両市に共通する課題や互いに補完しあえること等が確認でき、今回の 40 周年記念事業が両市のさらなる関係強化につながることを確信している。

最後に、今回の海外出張に際し、事前の準備及び現地での案内、随行でお世話になった両市の関係者の皆様に心からお礼申し上げる。